

イギリスの紫陽花 5月24日（月） 第18位

昨日、妻と庭仕事をしていたら近くの男の子が来て「あじさい、ありがとうございました！」と言いました。妻が花をあげた家の子です。二人とも思わず嬉しくなりました。

夕食が終わって de essay に書いた紫陽花エッセイのことを話すと妻は「ほら、イギリスで二人で見た紫陽花もきれいだったじゃない」と言いました。私は瞬間、返事もできず、慌てて記憶をたぐってみました。

エクセター大で研修をした1989年の2年後に私は再びエクセターに行くことになるのです。当時はまだバブルの残り香がある頃でした。新日鉄が社員の子女をイギリスで英語研修をさせようというプロジェクトを起ち上げました。その開催地がエクセター大学だったので。新日鉄側は都中英研に引率者の相談をしたのですが、「そう言えば錦糸中の北原が2年前に行った」ということになって、私に話が回ってきたのです。私はその秋に全英連大会の公開授業をすることになっていました。2年前に行ったときにはスピーチング教材を山のように買って帰つてきましたが、当時の研究の中心はリスニングでまたイギリスに行けるなら教材が買える、と承諾しました。条件は往復のビジネスクラスのフライトと現地の宿泊費・食費+謝金でした。何しろ前例がなくバブルだったので会社側は「いくらでもいい」と言つてましたが、私は「5万円

紫陽花？コロナ療養ホテルから
解放された嬉しさであまりよく
覚えていないなあ



でけっこうです」と答えました。

妻が仕事でやはりイギリス出張になりました。日程がかぶっています。娘達を妻の父母に預け、相次いで日本を後にしました。今のように携帯電話もメールもない頃ですから、お互いのスケジュール表だけを持って。

夏休みにエクセターハウスの寮で行われる語学学校(Regent School)の研修は月～金午前でした。ある週末に私が中学生3名を連れて2年前にホームステイしていた Stratford-upon-Avon につれて行った時のこと。小さな町ですが、折からシェークスピア関係の学会があつてホテルがいっぱい取れません。生徒たちは2年前の Landlady の知り合いがやっている Bed & Breakfast に泊まらせてもらうことになりましたが、私の泊まるところがありません。困って町を歩いているとちょうどシェークスピアの生家の前で向こうから妻がやってくるではないですか。彼女は Stratford 一番の The Moat House という☆3つのホテルに滞在することが分かっていましたから私は目を合わせず、「泊まるところない、泊まるところない」とすれ違いざまささやきましたが、「だめ」とにべもない。仕方なく私はかつてのホームステイ先に転がり込んだのでした。

数日後、私は保護者の知り合いの BA(British Air)のパイロットの方のところを訪問しました。すると「明日、家族でボーンマス(Bournemouth)に旅行に行くから一緒に来ないか」と言われました。Bournemouth と言えば、妻が滞在する予定の場所です。すぐに OK をして翌日、車に乗り込みました。(彼の運転はスムーズでしたが、スピードが半端ありません。イギリスの高速道路である Motorway をすごいスピードでぶっ飛ばします。「警察に捕まらないのですか」と聞くと、"Have you just landed, sir?"と聞かれて終わりだそうです。) Bournemouth でク

ルーザーを借りて(時々、私が操縦して!)トローリングをして釣れた魚を私がさばいて夕食にし、という一夜が終わり、翌日に妻がいるホテルに向かいました。再会出来たのはいいのですが、その日の寝床は確保できたのですが、それからが大変。彼女がホテル内で食事をしている間、打ち合わせをしている間、部屋には誰もいないことになっていますからドアに Don't Disturb の札をかけてひたすらじっとしているしかないのです。もちろんテレビはつけられない、暑いのにエアコンもつけられない。夜になって妻が買っててくれた食料を食べるだけです。コロナの療養ホテルか!

妻の自由になる時間ができて初めてホテルの外に出て二人で歩きました。曇り空の下、ボーンマス湾がきれいに広がっていました。紫陽花はきっとそのときに見たのでしょう。でもそんなこと記憶に残らないよなあ、悪いけど。

投票者コメント

- ・ご夫婦で同じタイミングで同じ場所に海外出張することに驚き。そして、スマホなしに海外で偶然奥様に遭遇できる北原先生は奇跡の男。嘘のような本当のお話。
- ・奥様とのエピソード 素敵過ぎます♡
- ・映画やドラマみたいだなと思いました。『「泊まるところない、泊まるところない」とずれ違いざまささやきましたが、「だめ」といふもない。』のところは、大笑いしてしまいました。その後のエピソードも最後のオチも面白かったです。
- ・紫陽花を通してまだお子様が小さかったころのお二人のイギリスでの偶然の出会いが小説のように描かれていてステキだなと思います!町の様子や情景、異国の地で、別の仕事で、出かけたお二人が偶然シェークスピアの生家の前でばったり出会う、なんてロマンティックでしょう!